

チェーザレ・リーパ『イコノロジーア』の包括的アーカイヴ構築に関する研究

Study on the Constructing of the Comprehensive Archive of Cesare Ripa's *Iconologia*

プロジェクト代表者：伊藤博明（教養学部・教授）

Hiroaki ITO (Faculty of Liberal Arts, Professor)

I 研究の目的

本研究が対象とするチェーザレ・リーパの『イコノロジーア』（*Iconologia*）は、初版が1593年にローマで刊行された、イタリア語による著作である。ヨーロッパでは古代より、人間の情念や抽象的観念、さらには学芸・学問など、具体的な表象像を有しないものを「寓意的人物像」によって表現してきた。本書『イコノロジーア』（本来は「図像の学」の意）は、こうした伝統を踏まえて作成された、寓意的人物像に関する集大成であり、次々と増補版が刊行され、1764-67年のペルージャ版までにその数は10を超えている。また、フランス語・オランダ語・ドイツ語・英語版も刊行されている。

この作品は、バロック期の芸術と文学に多大な影響を及ぼしており、その重要性についてはかねてより指摘されてきた。しかし、初版からペルージャ版まで、複雑な増補過程を経ているために、これまで批評版はおろか、項目・図像を網羅するコンコードダンスも作成されていない。本研究は、このような研究状況に鑑み、今後の『イコノロジーア』研究にとって基礎となるべき包括的アーカイヴの構築を目指して、その基幹的な部分の作成を目的とした。

II 研究経過と成果

1) チェーザレ・リーパ『イコノロジーア』の主要な9つの版（ローマ 1593；ローマ 1603；パドヴァ 1611；シエナ 1613；パドヴァ 1625；パドヴァ 1630；ヴェネツィア 1645；ペルージャ 1764-67）について、全項目のコンコードダンスを作成した。その結果、各版の項目数の変化は単なる増補だけではなく、項目の削除や統合を含む複雑な編集作業を経ていることが明らかになった。また、フランス語・オランダ語・ドイツ語・英語版についても基本的な参照作業を行った。

2) 各版に所収の図像についてスキャナーおよびデジタルカメラによって入力し、図像データ・ベースを作成し、各図版の異同について、テキストの異同をも考慮しながら調査・分析を行った。その結果、版を重ねるにつれて、全体的にテキストとの整合性が図られ、また描写も詳細になっていることがわかった。カステッリーニによる増補、またリッチの『道徳ヒエログリフ集』（1626）からの借用はもとより、アンドレア・アルチャーティの『エンブレム集』（初版は1531）などの著名な寓意図案集からの影響が明らかになり、『イコノロジーア』の典拠について一層の探索と分析の必要性が確認された。

3) 『イコノロジーア』の主要な項目を抽出して、各版のテキストの異同について詳しい分析を行っ

た。その結果、項目全体にわたる増補のほかにも、細かな点において削除・訂正・加筆が施されていることが明白となり、『イコノロジーア』の読解と解釈にあたっては、入念なテキスト・クリティックが必要であることが証明された。また、主要項目については試験的に邦訳を試みた。

4) 『イコノロジーア』がバロック期の芸術に与えた影響について、エミール・マールやエレナ・マンドウスキーの研究を参照しながら、ローマのナヴォーナ広場の彫刻群、ヴェルサイユ宮殿内部の装飾などの図像を、スキャナーおよびデジタルカメラによって入力し、図像ベース化した。その結果、『イコノロジーア』の影響の大きさが看取されるとともに、各国語版（とりわけフランス語版）の重要性が明らかになった。

5) 研究成果の一部を以下において発表した。

「チャーザレ・リーパ『イコノロジーア』の諸版について」、ルネサンス研究会、平成17年度第2回研究発表会、平成17年12月10日、同志社大学

この研究発表においては、『イコノロジーア』の初版（1593）から最近刊行されたスペイン語訳までの諸版・諸翻訳を通覧し、また、〈豊饒〉〈貧困〉などいくつかの項目について、テキストと図像の異同について詳細に検討を加えた。

6) 研究成果の一部を次の著作において利用した。

ポーラ・フィンドレン著『自然の占有——ミュージアム、蒐集、そして初期近代イタリアの科学文化』、共著、ありな書房、平成17年11月刊行

アビ・ヴァールブルク著『ルネサンスの祝祭的生における古代と近代』、共訳、ありな書房、平成18年1月刊行

アビ・ヴァールブルク著『ルター時代の言葉と図像における異教的= 古代的予言』、共訳、ありな書房、平成18年6月刊行

Ⅲ 具体的な分析例——〈貧困〉

以下、リーパ『イコノロジーア』から〈貧困〉（POVERTA）を例に主要な版のテキストと図像の変遷、および、その典拠と影響について考察したい。

1) 初版（1593年、ローマ）において〈貧困〉（pp.217-219）は、5つの項目に分かれている。すなわち、

- ① (In uno, che habbia bello ingegno) Donna, mal vestita, ...
- ② Donna, vestita come una Zingara, ...
- ③ Donna, ignuda, & macilenta a sedere sopra un aspra rupe, ...
- ④ Donna, pallida, & furiosa, vestita di nero, ...
- ⑤ (Il Doni.) Donna, distesa sopra rami d'alberi, ...

なお本書には、図版は含まれていない。

2) 1603年、ローマ版（pp.408-410）では、まず、5つの項目の順序が以下のように改変されてい

る。すなわち、

②→③→④→⑤→①

また、最後に6番目の項目として"POVERTA DI SPIRITO"が付加されている。

テキスト上の変化としては、②における"piu misera" (p.218, l.9) の削除と、①における"Poverta, e mancamento delle cose necessarie all'huomo, per sostengo della vita, & acquisto della virtu" (ed.1603, p.410, ll.1-2) の追加が指摘しうる。

本書には図版が収められており [図1]、それは①の内容に対応している。テキストの邦訳は以下の通り。

「〈貧困〉——麗しき才知をもつ者における

みすばらしい身なりの女。右手は、地面に置かれた大きな岩につながれ、左手は高くさしのべられている。[左の]手と[左の二の]腕のあいだには、一對の開いた翼がついている。

貧困とは、人間が生命を維持し、美德を獲得するために必要な事物の欠如である。

左手についている翼は、貧しくとも才知ある者たちの欲求を意味している。彼らは美德の困難さを熱望するのだが、自らの必要性のために抑圧され、平民の卑屈さと浅ましきのなかに留まることを強要される。この図像を創案したことで称讃されるべきは、ギリシア人たちである。」

3) 1618年、パドヴァ版 (pp.419-420) では、5つの項目の順序は初版に戻っている。テキストは1603年版と同一であり、図像も踏襲している。

4) 1630年、パドヴァ版 (pp.579a-580b) の項目の順序は次のとおり。

②→①→③→④→⑤→⑥

①の項目においては、約20行に及ぶ大幅な追加が見られる。その他のテキストは1603年と同一であり、図像も前版を踏襲している。

5) 1764年、ペルージャ版 (vol.4, pp.394-397) の項目の順序は1603年と同一である。ただし、「聖なる歴史の事実」、「俗なる歴史の事実」、「寓話的な事実」の標題のもとに、長文の註釈が施されている。図像の点では、これまでの図像とは異なり、右手が紐で繋がれている石は地上に置かれている (この方がテキストに近い) [図2]。

6) 1644年、パリ版は、フランス語による短縮された翻案であり、図像はイタリア語版を参考に描かれている。

◎典拠：アンドレア・アルチャーティ『エンブレム集』（1531年、アウクスブルク）、

〈困窮は偉大な才知が進みでることを妨げる〉 [図3]

◎影響：ブーダール『イコノロジー』（1759年、パルマ） [図4]

ハーテル『……有益な象徴』（1760年、アウクスブルク）

リチャードソン『アイコノロジー』（1778年、ロンドン）

[图 1]

ICONOLOGIA
POVERTA'



[图 3]

Paupertatem summis ingenijs
obesse, ne prouchantur.



[图 2]

394

ICONOLOGIA

POVERTA' IN UNO CHE ABBA BELL'INGEGNO.

Di Cesare Ripa.



Castel. Povertà in uno di abba bell'ingegno. C. Ripa del.

[图 4]

